

# 昌一金属支部一六春闘報告

支部書記長 K

昌一金属支部では、今春闘を港合同の地域統一闘争として闘い、地域を背景にして、本社・工場での集会とデモなど現場行動を積み上げて、闘い抜きました。

昨年、我が支部は電力の大再編情勢を見据え、外注化・非正規職化が資本の生き残りをかけた唯一の攻撃であり、それは労働組合を解体することなしに、労働者の団結を徹底的に分断することなしにできないこと、そして我が支部が職場を軸に地域の団結に依拠して闘

えば勝てるということをはッキリさせてきました。

福島原発事故を無かったことにしようとする相次ぐ原発再稼働攻撃、そして四月からの電力の全面自由化攻撃は、安倍政権が推進する改憲＝戦争攻撃そのものであり、派遣法改悪と一体の外注化・総非正規職化という新自由主義政策そのものです。

アベノミクスの終焉と官製春闘の崩壊の中で、我が支部の春闘の特徴は大きく二点でした。一つは第一回回答で前年から半分の二〇〇〇円

回答であったことです。

現場では人手が足りず、過重労働なほどに仕事量があるにも関わらず、各電力からの厳しいコストダウン要請が、同じ仕事量をこなしても売上げ減少となっているのです。

もう一つは、団交の席上で、初めて公にパートの導入を要請してきたことです。

我が支部では、一九六〇年に結成された後、一九六九年にそれまでであったパート労働者の正社員化を勝ちとりました。

以降、一九八七年国鉄



分割・民営化による国労解体、総評解散、連合結成と一体で派遣法が制定され、製造業をはじめ社会的に非正規雇用が拡大し、今や十割非正規が叫ばれる中にも、全員が正規で、非正規雇用の導入を阻止し続けてきました。

それを経営は、仕事が

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！



バタバタで人手を増やせという組合の要求を口実にして「採用の募集をかけても応募が来ない」「それはニーズに合っていないから」として、パートも検討すべきとだしてきたのです。

経営の賃上げ交渉の回答理由にも示されるように「電力からの値下げ要

請」、「原発がいつ動か分らない」、加えて「電力自由化で先行きが見えない」中で、賃上げを抑制し、これからは非正規雇用で人件費を半分にして、経営だけが生き延びようとしています。

今春闘で経営は、超低額回答と非正規職導入をセットで出してきたところ

に、焦りと危機感が表れています。我が支部は港合同との力関係をそのままにして、このような敵の意図が破産することは必至です。にも関わらず出さざるを得なかった。それはすでに支部が昨年の定期大会において、今日の労働者と企業を取り

巻く情勢から、経営が外注化・総非正規職化に踏み込んでくることを見据えて、闘う腹を固めてきたことが大きかったと思います。

我が支部は三回の統一交渉日を超えて交渉を重ね、最終的に四〇〇〇円の賃上げを勝ち取り、パート導入については交渉の

余地なしと切って捨てて集約しました。

電力業界をめぐる規制緩和と競争の激化が、中小の経営にも影響を与え、その矛先が労働者に向けられてる今、支部も全力で団結を固め、この攻防に勝ち抜いていきたいと思えます。

尼崎事故深刻！ 反合理化・運転保安闘争で闘おう！  
外注化・非正規職化粉砕！ JRは1047名を直ちに雇え！  
派遣法廃止！安倍政権の改憲・戦争と労働法大改憲を打ち破ろう！

## 全国総決起集会

4月24日(日)  
午後1時  
JR尼崎駅北口広場

西日本旅客鉄道株式会社(以下JR西日本)は、2016年4月24日(日)午後1時、JR西日本本社(兵庫県神戸市中央区)で、全国各支部から参加する労働者代表と、JR西日本本社幹部とが対峙する「全国総決起集会」を開催する。

よびかけ 国鉄千葉動力車労働組合 国鉄闘争全国運動・関西  
連絡先 全国金属機械労働組合・港合同